

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【鈴谷小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	【課題】 算数：除法の性質を用いて、分数の除法を考えることに課題がある。 【改善策】今年度、全国学力学習状況調査と市学習状況調査で課題となった事項については、校内で共有し、年間指導計画に重点事項として位置付ける。 算数：整数の乗法及び除法から小数の乗法及び除法への拡張された乗法及び除法の意味を適用できるように指導する。すなわち、小数の乗法及び除法の計算の考え方を基にして、序数が分数の乗法及び除法の意味について理解できるようにする。
思考・判断・表現	【課題】 国語：①話の中心を聞き手に伝えるための話し方に課題がある。 ②俳句を詠んだ作者の心情や情景について、描写を基に捉えることに課題がある。 【改善策】今年度、全国学力学習状況調査と市学習状況調査で課題となった事項については、校内で共有し、年間指導計画に重点事項として位置付ける。 国語：①冒頭で話の中心を述べ、そのことに合わせた理由や事例などを挙げたり、最初に提示した内容と結論とがずれないようにしりするように指導する。 ②登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されていることにも注意し、想像を豊かにしながら読ませるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	【課題】児童の学習の調整が知識及び技能の習得などに結びついていない場合に、教師が学習の進め方を、個別に、適切に指導すること。 【改善策】引き継ぎ、全ての教科等において、目標やめあてなど学習のゴールを明示し、教師児童間、児童間の意見交換等により、考えを深める学習の場を設定する。また、授業や単元等の終末には、目標やめあてに沿った振り返りを行い、身に付けた力を意識化させる。加えて、組織的に適切な学習評価により、児童の学習改善や教師の指導改善に繋げるようにする。併せて、児童が主体的に学習に取り組むことができ、教育効果を高められるよう教育課程をマネジメントする。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	令和4年度全国学力・学習状況調査本校結果より、国語で2pt(昨年度70.7)、算数で3pt(昨年度64.2)向上させる(市平均を上回る。)。また、令和4年度市学習状況調査本校結果より、国語・算数で各学年1pt向上させる(市平均を上回る。)	⇒ 個別指導や少人数指導等を可能にする教室環境の整備を進め、個に応じた指導支援を、特に中学年以上で充実させる。 ・学校課題研究での取り組みを通して、「ドリルパーク」「スタディサプリ」の活用を進め、学習指導計画内に位置付ける。 ・授業や単元等の終末には、目標やめあてに沿った振り返りを行い、身に付けた力を意識化させる。
思考・判断・表現	令和4年度全国学力・学習状況調査本校結果より、国語・算数(昨年度「国語」65.1「算数」58.1)において1pt向上させる(市平均を上回る。)。また、令和4年度市学習状況調査本校結果より、国語・算数のいずれにおいても、各学年において市平均を上回る。	⇒ 全ての教科等において、目標やめあてなど学習のゴールを明示し、学習への目的意識をもたせる。また、国語・算数においては複数の資料の読み取り等を行い、つなげたり比べたりして読む、数学的な表現を使って自力解決をする等の学習活動を設定する。 ・タブレット端末を活用するなどして、児童間の意見交換等を多面的に行わせ、考えを深める学習の場を設定する。また、授業や単元等の終末には、目標やめあてに沿った振り返りを行い、考え方の変容等を意識化させる。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度全国学力学習状況調査「児童質問紙調査」の「5年生までに受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に対し、肯定的回答を85%以上にする。(昨年度さいたま市平均81.7%)。また、令和5年度市学習状況調査「生活習慣に関する調査」の「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」(56年)の質問に対し、肯定的回答を90%以上にする。(前年度59.2%・6年88.6%)	⇒ 全ての教科等において、学習計画表等を用いて、目標やめあてなど学習のゴールを明示したり、学習に粘り強く取り組めるよう指導方法の工夫改善を行う。 ・タブレット端末を活用するなどして、児童の学習意欲を向上させるとともに、主体的な意見交換等を行わせ、考えを深める学習の場を設定する。また、授業や単元等の終末には、目標やめあてに沿った振り返りを行い、身に付けた力を意識化させる。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	○全国学力・学習状況調査結果6年【国語】令和4年度(70.7pt)⇒今年度(75.8)5pt向上 6年【算数】(64.2pt)⇒#(73.9)9pt向上 ※ 令和5年度市平均 国語(71.7pt)、算数(69.5pt)をいずれも上回った。(達成) ○市学習状況調査結果(昨年度との比較<異集団同学年>) 【国語】3年↑1.7pt↑4年0.1pt↓5年2.3pt↑6年1.2pt↓※R5年度市平均超を4つの学年で達成 【算数】3年2.5pt↑4年1.2pt↓5年1.9pt↑6年3.2pt↑※R5年度市平均を各学年で上回った。	A
思考・判断・表現	○全国学力・学習状況調査結果6年【国語】令和4年度(70.7pt)⇒今年度(68.5)2pt下降 6年【算数】(64.2pt)⇒#(63.0)1pt下降 ※ 令和5年度市平均 国語(67.9pt)、算数(58.9pt)をいずれも上回った。(達成) ○市学習状況調査結果(昨年度との比較<異集団同学年 偏差値比較>) 【国語】3年0.3pt↓4年1.0pt↓5年1.0pt↑6年0.3pt↑※R5年度市平均を各学年で上回った。 【算数】3年1.2pt↓4年1.1pt↓5年0.4pt↑6年2.4pt↑※R5年度市平均を各学年で上回った。	A
主体的に学習に取り組む態度	○令和5年度全国学力学習状況調査「児童質問紙調査」の「5年生までに受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問への肯定的回答⇒85.7%(達成) ○令和5年度市学習状況調査「生活習慣に関する調査」の「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」(56年)の質問への肯定的回答⇒5年:92.3% 6年:82.5%	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	昨年度全国学力・学習状況調査結果と比較して、国語で5.1p、算数では9.7p向上した。 【国語】情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことはできている。 【算数】正方形の意味や性質について理解することはできている。また、「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることはできている。一方で、示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせた棒グラフを読み取ることはできていない。 昨年度全国学力・学習状況調査結果と比較して、国語で3.4p、算数では4.9p向上した。
思考・判断・表現	【国語】必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えること、また、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約したものを選択すること等はできている。一方で、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。そのため、必要に応じて、教師が、図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することで、
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度全国学力学習状況調査「児童質問紙調査」の「5年生までに受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に対し、肯定的回答が85.7%であった。子ども達の主体的な学習が着実に進んでいると言える。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	【国語】5つの領域全てにおいて市平均正答率を上回り、うち3つの領域では市の平均正答率を3ポイント以上上回っている。 【算数】3つの領域すべてにおいて市平均正答率を3ポイント以上上回っている。	小4	【国語】5つの領域の内4つの領域において市平均正答率を上回り、うち3領域では3ポイント以上上回っている。しかし、「話すこと・聞くこと」においては1.0ポイント市平均正答率を下回っており、課題と言える。 【算数】4つの領域全てにおいて市平均正答率を上回り、特に「変化と関係」の領域については3ポイント以上上回っている。
小5	【国語】4つの領域全てにおいて市平均正答率を3ポイント以上上回っている。 【算数】4つの領域全てにおいて市平均正答率を3ポイント以上上回っている。 【社会】2つの領域においていずれも市平均正答率を3ポイント以上上回っている。 【理科】4つの領域全てにおいて市平均正答率を上回り、うち2領域においては3ポイント以上上回っている。	小6	【国語】4つの領域中「話すこと・聞くこと」「書くこと」においては、市平均正答率を上回っているが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「読むこと」では下回っており、課題である。 【算数】4つの領域中3つの領域で市平均正答率を上回り、うち「変化と関係」「データの活用」では3ポイント以上上回るが、「数と計算」では下回っており課題である。 【社会】3つの領域の内2つの領域で市平均正答率を上回っているが、「地理的環境と人々の生活」においては下回っており、課題である。 【理科】4つの領域全てにおいて市平均正答率を上回り、うち2領域においては3ポイント以上上回っている。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし